



TITLE:

高分子(サブゼミ,1987年度物性若手
夏の学校報告)

AUTHOR(S):

生方; 酒向

CITATION:

生方 ...[et al]. 高分子(サブゼミ,1987年度物性若手夏の学校報告). 物性研究 1988, 49(5): 503-504

ISSUE DATE:

1988-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92915>

RIGHT:

氏（東大理）と、飛び入り参加の出口哲夫氏（東大教養）の2人でした。井上氏は「量子スピン系も面白いよ」と題して、この両者の関係と、組み紐群について話されました。講義、発表いずれも大変興味深い話で、しかも分り易く、この分野に関心をもっていた参加者は大変楽しめたことと思います。特に、紐を操りながら闊達に話す出口氏の発表は印象的でした。最後に、忙しいなか時間を割いてくださった阿久津氏と発表者両氏とに感謝の意を表し、来年の世話人にバトンを手渡すことにします。

（文責 伊藤伸泰）

サブゼミ 格子欠陥

打ちっぱなしのコンクリートと青いビニールシート、ほのかに香るのはぬかみその臭いか。なんと格子欠陥サブゼミはスキーの乾燥室で行なわれることになっていたのだった。いったいこんな所に人が集まるのだろうか？と不安を抱きつつも迎える本番。

発表をお願いしたのは九大応力研の榎井浩一^{マキイ}さんです。今年の春の学会で発表をお願いしました。「BCC結晶中のらせん転移と点欠陥の相互作用」という題です。

講師をお願いしたのは東北大金研の石岡俊也先生です。「転位のダイナミクス」という題です。

人の入りは、まあ大入り満員といってもよいでしょう。30ぐらいの席が全てうまりました。ほっと一息。時間中は私が一人で質問しまくっていたようで、今ひとつ議論に盛り上がりが出ていたようです。残念。

その夜のコンパで次の世話人にタッチして無事肩の荷を降ろしました。とにかく石岡先生、榎井さん、九大の皆さんごくろう様でした。またお会いしましょう。

（文責 池淵 立）

サブゼミ 高 分 子

参加者は、20～14名と少数でしたので、くつろいだ雰囲気で行進しました。講義形式でお

1987年度物性若手夏の学校報告

こないましたが、活発な議論もなされました。

内容は、下記のとおり

1日目 『鎖のダイナミックス』 土井正男（都立大・理）

2日目 『ポリマーブレンドの相分離過程』 高橋正人（都立大・工）

『ブロック共重合体のマイクロ相分離』 興梠光治（九州大・理）

いろいろな話をききたいという意見がありましたので、ポスターセッションで発表予定の興梠さんにも発表していただきました。

御協力下さいました皆様に、この場をかりて御礼申し上げます。

（文責 生方，酒向）

サブゼミ 磁 性

「ラーベス相を中心とした金属間化合物の磁性」

{ 講 師 志賀正幸（京都大・工）
発表者 山崎隆司（筑波大・工）

磁性における基本的な問題のなかで、今回は志賀先生に、ラーベス相金属間化合物の磁性をスピンの揺らぎの観点から講義していただいた。

まず金属の磁性について、バンド理論，局在電子モデルから始まり，スピンの揺らぎ理論へと進んでいった。その中で，スピン揺らぎの温度変化，帯磁率，磁気体積効果などについて丁寧に解説していただいた。

後半は，Laves 相金属間化合物の実験データ，主に熱膨張について，その解析とスピン揺らぎとの対応を話して頂いた。

また，発表者の山崎さんは，「f 電子系のホール効果」として，Ce 化合物のホール効果と，電気抵抗，帯磁率との関連を発表して頂いた。

（文責 熊谷和夫）